

## 授業概要

### 共通技法科目

授業題目名	講義等の内容
現代英語演習	文学作品・雑誌・新聞等様々な分野にわたる英文を教材として、英語文化圏に対する高度な読解力を養うと共に、英語で自由に表現できる発信型文章作成能力の育成を目指す。
現代ドイツ語演習	分野を問わず基礎となる内容を、平明簡潔な文体で記したドイツ語を教材に取り上げ、言葉に内包された文化や生活、それに風俗や精神性にも目を配りながら、語学の修得に心がけると共に、ドイツ語での表現能力の育成を目指す。
現代フランス語演習	様々な分野にわたる現代フランス語の文献を教材として用い、現代フランス語に対する的確な読解力を養いながら、また同時に、現代フランス語によって自分の考えなどを表現できる作文表現能力の育成を目指す。
現代中国語演習	様々な分野にわたる中国語の文献を教材として、現代の中国社会に対する理解を深め、それを前提として、現代中国語の高度な読解力を養う。同時に、中国語による文章作成表現のトレーニングも行う。
現代日本語演習 (留学生対象)	外国人留学生を対象に、読み、書きを中心とした高度な日本語の運用能力のトレーニングを行う。日本語で書かれた専門の文献を読みこなす能力をつけること、レポート、論文を日本語で作成できるようにすることを目標とする。
情報処理演習	情報処理の基本的なスキルの習得と、学内のネットワーク環境の習熟、さらにインターネット(www)を活用した情報収集の方法論の実習を行う。在宅での教育研究活動、指導が可能になる段階までの能力を養う。
現代日本社会文化論 (留学生対象)	留学生を対象に、現代日本に対する理解を深めることを目的とする。様々な専門分野の複数教員が、受け継ぎ方式で日本の文化・社会の特質やその抱える諸問題に関する多面的な講義を行う。なお、授業は原則として日本語で行う。

### 特別研究

授業題目名	講義等の内容
特別研究	修士論文作成の前段階の研究指導を行うもので、学生の研究能力を育成する。
特別研究	修士論文作成の研究指導を行うもので、特定のテーマに関する調査・研究を指導する。

分野専攻科目

地域・日本研究分

分野講義科目および分野演習科目（比較日本文化論領域）

授業題目名	講義等の内容
日本古典文学論特論	古代中世文学において、説話・伝承を中心視座にすえ、その思想、表現の展開、さらに説話・伝承が物語文学や和歌文学などどのように関わっているかといった諸問題を考察する。
日本文献資料論特論	日本古典文学のいくつかの作品を取り上げ、具体的な文献に即して本文批判、成立問題、出典研究などの諸問題を考える。一回乃至数回の授業で一つのテーマを扱い、講義を進めていく。
近代日本言語文化論特論	日本近代文学についての優れた論文を書くための準備、という位置付けで講義を行う。まず、先行の研究を紹介し、どこが優れているのか、どこに問題があるのかを考える。それから、文献の調査の仕方、論理的な文書の書き方、などを講義する。また、具体的に作品を取り上げて、それに注釈を加えながら、既存の読みとは異なる新しい読みの可能性を探る。
日本言語論特論	平安時代から鎌倉時代を中心とする日本語を対象に、その種々の言語事象、特徴について述べる。その際、具体的な文献資料の実例をもって説明することを主眼とし、併せて、言語事象・特徴を単に述べるだけでなく、言語文化的観点からのアプローチ、意義付けをも重視する。
比較文化論特論	近現代の日本とヨーロッパの文化交流について、主として「ヨーロッパから見た日本」および、「文化接触による日本文化の変容」という観点から講義を行う。更に、そのことを通じて、現代日本文化のありようを究明する。
中世日本社会史特論	室町時代の政治慣習も視野におさめつつ、織豊政権や大名の権力構造およびこれらの相互関係における意思伝達のチャンネルに対する分析を通して、当該期武家政治の特質を実証的かつ具体的に究明する。
近世日本社会史特論	近世日本の鉱山社会史を中心に講ずる。幕藩領主の鉱山支配、鉱山の経営構造、鉱山法、鉱夫としての社会集団、鉱業技術等、鉱山社会史の諸問題を講述しながら、近世日本社会の特質を究明する。
近代日本政治史特論	日本近代史上の諸問題を史料に基づいて考察する。大正デモクラシー期から敗戦に至る時期を主な検討の対象として、政治過程の変容・法制の変遷などを考察する。とくに、明治憲法を含めた法と社会の動向との関係を考察の中心に据え、そこからそれぞれの時代相を明らかにしていく。
地域文化論特論	ツーリズムや場所・風景の問題を考えるために、日本語・英語・フランス語などの文献を読み、理解を深める。分野としては、地理学だけでなく、関連する諸分野を取り上げる。
地域言語論特論	高知県の地域言語である高知県方言は、大きく東西の二方言（土佐弁・幡多弁）に分かれる。音韻・文法・語彙の視点から二方言の共通点と相違点を整理し、現在起こっているそれぞれの変化に着目しながら地域言語の動向を探る。
自然環境論特論	自然環境（地形、気候、水文、植生など）の特質と、それから生じる各種の社会問題（災害、資源管理、自然保護、環境保全など）について講じる。題材としては、歴史的な環境問題の流れを概説するなかで、とくに注目すべき事件をとりあげ、自然史科学、社会科学、および思想史的な視点から分析を加える。
考古学特論	日本原始古代の親族構造について講義を行う。弥生時代～古墳時代の墳墓資料を中心にして、埋葬施設・古人骨資料の検討から親族構造の復元を行う。

日本古典文学論演習	古代中世文学の諸テキストを対象として、文学研究の課題と方法について検討する。なかでも説話・伝承が物語文学や和歌文学などいかに関わっているかという問題を取扱い、研究発表とディスカッションを行う。
日本文献資料論演習	日本文献資料論特論での学習をもとに、受講生が研究対象とする作品についての研究発表を輪番で行う。授業では、担当者が準備した発表資料に基づいて、研究発表とディスカッションを行う。
近代日本言語文化論演習	前期はこちらが指定した作品及び作家について、後期は各自が興味を持っている問題についての調査、発表を行ってもらう。発表に際しては、既存の研究とは異なる新しい視点が出せるようにする。テキストを補足するための資料の提出を要求する。発表に対して議論を重ね、問題の理解を深めていく。
日本語論演習	平安時代後半から鎌倉時代までの、古代語から中世語へ変遷して行く時期に当たる日本語を主たる対象として、日本語学の観点と研究方法とを学ぶ。具体的には、該当する日本語資料の解読作業と、それを踏まえた何らかの言語的観点による研究と討論とを行い、日本語学の実力を身に付ける。
比較文化論演習	比較文化論特論の講義内容を踏まえ、主として邦語文献によりながら、日本とヨーロッパの文化的交流の実際とその意味について考える。また、それを通じて、比較文学・比較文化研究の一つの基礎となる、文献資料の「本文解釈」という方法を習得する。また、研究発表とディスカッションを行う。
中世日本社会史演習	中世日本社会史特論の内容を踏まえ、室町時代の政治慣習も視野におさめつつ、織豊政権や大名の権力構造およびこれらの相互関係における意思伝達のチャンネルに対する分析を通して、当該期武家政治の特質を実証的かつ具体的に究明する。授業は研究発表とディスカッションを中心に進める。
近世日本社会史演習	土佐藩を中心に、藩政史料や農村史料、寺子屋等の庶民文化史関係史料を素材として、史料の解読、分析、研究視点等、近世社会史や地域史、文化史の研究方法を修得する。また、研究発表とディスカッションを行う。
近代日本政治史演習	日本近代史上の政治・法制に関する基本的な史料(政治家の日記・帝国議会議事録・新聞史料など)を系統的に解読することによって、近代史研究の基本的な方法を修得する。また、研究発表とディスカッションを行う。
地域文化論演習	日本語・英語・フランス語の地理学的成果およびその関連分野の研究を理解・把握した上で、地理学的テーマを分析する手法を修得する。とくに、研究発表とディスカッションを重視する。
地域言語論演習	高知県方言の東ことば(土佐弁)・西ことば(幡多弁)を代表すると思われる地点を数地点(最低各1地点)選び、臨地調査を通して二方言の特色を音韻・文法・語彙の視点から整理し、研究発表とディスカッションを行う。
自然環境論演習	いわゆる環境問題(災害論、資源論、風土論ふうの趣きをもつものを含む)はきわめて広い内容を持っているので、どのようなテーマや視点があり、どのようなデータからどこまで論じられるかを見極めることが重要である。この演習では、受講者の関心にしたがいながら、既存文献を講読して研究手法を学び研究発表とディスカッションを行う。
考古学演習	発掘調査で明らかにされた遺跡・出土遺物を用いて、日本原始古代の社会復元を試みる。そうした作業と外書講読を通じて考古学による歴史研究法を修得する。また、研究発表とディスカッションを行う。

分野講義科目および分野演習科目(日本社会構造論領域)

授業題目名	講義等の内容
産業構造論特論	経済の発展・成長に伴う経済構造の変化を、種々データや資料、分析結果を用いて考察を行う。特に産業構造分析の有力な手段である産業連関分析の手法を用いて、生産技術構造の変化や相互依存関係、経済のサービス化・国際化などの検討を行う。
資本主義論特論	「20世紀社会主義の崩壊」という事実とアジアにおける急速な資本主義の発展を視野に入れて、資本主義段階の世界史的意義についての従来の歴史理論・経済理論の諸成果を整理・再検討しつつ、人間の尊重と発達・環境創造・自主管理の福祉社会の展望について理論的に究明する。
日本金融システム特論	金融システムの中核は信用創造と金融資本の蓄積である。こうした貨幣金融理論の原理を基礎として、実体経済と金融システムの関連、市中銀行と中央銀行の関係、日本における金融資本市場の動態について究明する。この講義では、貨幣金融理論ばかりではなく、地域金融や国際金融にも目を配り、さらに企業金融にも論及して、企業をめぐる金融情勢について一定の判断ができる実践的な知識が得られるよう配慮する。
民法特論	本講義では、民法領域の中から土地法制の基礎となっている土地(建物)所有権・不動産賃貸契約・借地借家法の内容について、法的強制力を持って条文の規範内容を形成している裁判例や借地借家法に関する法政策の動向にも目を向けつつ、考察を進める。
憲法特論	現代の憲法の意義について、主権の存在様式を国民国家の変動および民主主義の在り方として問い、社会と個人の関わりを国民の生活の中の価値と裁判を具体例として人権保障の観点から究明する。
自治体行政法特論	地方分権改革前後の法制度を検討し、旧制度時代と分権時代の特質を踏まえた上で、国=自治体および都道府県=市町村の関係、自治体行政と住民との協働など、これからの自治体行政のあり方について、制度設計も含め多角的に検討する。
経済理論特論	貨幣の発生メカニズムや剰余価値の生成根拠など最も基本的な経済理論上の論点をとりあげて考察し、労働価値論の骨格を究明する。
地域流通市場史特論	地域の市場流通システムは全国・世界とリンクしている。また、今日の市場経済と商品流通のネットワークは、経済的諸活動の歴史的蓄積と地域の社会的・文化的な特質を持っている。本特論ではそれらを究明する。
地域農業構造論特論	主として条件不利地の経済動態を応用ミクロ経済学的立場から究明する。分析は生活や環境の視点を重視しながら展開する。また、日本とEUの地域政策の比較から新しい地域政策の検討を行う。
地域社会学特論	日本と中国の地域社会(村落と都市)でおこなわれてきたフィールドワークにもとづいて、比較研究の視点から現状分析をしながら、今後の地域社会のあり方を検討する。また、いくつかの事例研究をふまえたうえで、生業の変化に伴う地域の社会構造や文化伝統の変容について究明する。
地域環境経済論特論	地域におけるさまざまな環境問題とそれに対する政策的対応について、ミクロ経済学や公共経済学の枠組みに基づくモデルを使い、理論的かつ実証的に究明する。その際、農林業等の地域の産業と環境の関係という視点を重視する。その過程で、理論モデルの妥当性の検討、モデルを活用したシミュレーションや予測、環境の価値の経済評価といった、計量経済学的手法に基づくさまざまな実証研究の方法についても検討する。
社会福祉経済論特論	社会が高齢化してゆくなかで、21世紀における福祉システムのあり方を考えるため、日本と諸外国の福祉制度・政策とそれを取り巻く社会状況の比較研究と、福祉国家、福祉政策の現状と将来展望に関する諸学説の比較検討を行う。特に、年金・医療・介護政策や児童・障害者福祉政策の行財政システムとそれを取り巻く社会状況に焦点をあてる。

公益事業論特論	主として米国の公益事業を電力産業と保健医療産業の両面から考察した上で、21世紀における公益事業のあり方を究明する。その際、日本とその地域の公益事業にも考察を加えていく。
日本経済構造分析論特論	資本主義システムの安定性及び安定要因の解明を行う一方、安定的な経済システム構築のための地域事例として日本経済を取り上げ、そのマクロ的特徴を理論的・実証的に究明する。さらに、地域産業連関構造の解析を通して地方経済の発展の視点から日本経済の再生策も併せて検討する。
財政学特論	主として公共財・準公共財の供給形態と、供給システムの効率性や費用負担のあるべき姿について検討すると共に、国の歳入歳出構造や公会計制度などを、その視点から究明する。
労働経済論特論	労働者、企業における経済的インセンティブの側面から、労働市場における賃金、雇用の決定メカニズムを解明し、その上で政府による雇用政策のあり方を検討する。
地方財政論特論	経済社会の構造変化と分権改革のなかでの自治体財政問題について、地域経済、地域問題、地域政策との関わりを重視しながら分析するとともに、地方財政改革について考察する。特に高知県における自治体財政の分析と自治体財政政策のあり方を検討する。
都市政策論特論	現代の都市が抱える諸問題の原因を探り、その現状や弊害を経済的側面から分析する。その上で、今後の都市政策のあり方や都市問題の対策を事例研究を通じて考察する。
日本企業論特論	日本企業の特質を株式制度、会社制度の視点から解明すると同時に、地域の中小企業の経済学・経営学的分析を行い、あわせて日本企業のあり方を究明する。
ミクロ経済学特論	ミクロ経済学を体系的に講義する。すなわち、生産者と消費者の行動、市場均衡、不完全競争、厚生経済、公共経済を講義する。生産者と消費者の行動理論では双対定理を軸に体系的な理解を深め、市場均衡・不完全競争・公共経済についてはゲーム論や不確実性の経済学を援用し、現実的な問題への導入も行う。
マクロ経済学特論	投資理論を軸にマクロ経済学を体系的に講義する。とくに、資本主義システムの構造的特徴について企業の投資行動の特性を中心に解析することで、この特性が国内の経済政策効果や世界資本主義システム構造にどのような影響をもたらすのかを解明する。
産業構造論演習	産業構造分析の有力な手段である産業関連分析に関する基礎的な文献を購読する。また、産業連関表を用いて、特定地域の産業構造の変化や生産技術構造の変化などを検討し、研究発表とディスカッションを行う。
資本主義論演習	段階の世界史的意義について論じられた従来の歴史理論、経済理論の成果と限界とを再整理しながら、「市場経済」の限界を見定め、「豊かな人間の生産」=「豊かな生の実現」を目的とする経済構造への道について研究発表とディスカッションを行う。
日本金融システム演習	金融システムの中核は信用創造と金融資産の蓄積である。こうした貨幣金融理論の原理を基礎として、地域金融や国際金融を視野に入れ、実体経済と金融システムの関連、市中銀行と中央銀行の関係、日本における金融資本市場の動態について究明する。この演習では、まず基本文献を分担購読し、研究発表とディスカッションを行う。
民法演習	本演習では、不動産所有権や不動産賃貸借に関する民法的知識と関連させながら、土地法制の民事的基本法である借地借家法の内容や改正の動向をめぐる諸論点について、基本的文献を分担して講読し、研究発表とディスカッションを行う。
憲法演習	日本における憲法判例、憲法学説を検討する。わが国での政治、政策の資料分析を行うとともに、アメリカを含む比較なども加え、研究発表とディスカッションを行う。
自治体行政法演習	地方分権時代の自治体関係法解釈論について、地方自治関係の裁判例等を素材に検討する。
経済理論演習	剰余価値生産の具体的な形態の考察を基礎にして、その資本への再転化である蓄積が資本と労働の両面に対していかなる影響を与えるかを考察し、研究発表とディスカッションを行う。

地域流通市場史演習	地域の流通問題を歴史的、空間的な広がりをもったものとして捉え、研究する。特に、高速道開通、太平洋新時代に対応して、地域流通政策が必要となっている。本演習ではそれら現状の政策を視野に入れた流通市場史を検討し、研究発表とディスカッションを行う。
地域農業構造論演習	高知県の条件不利地域を主な分析対象とする。まず、条件不利地域がもつ固有の資源を明らかにした上で、他地域に先駆けて環境適合的で豊かな生活を実現するためのプロセスを検討し、研究発表とディスカッションを行う。
地域社会学演習	日本の家と村に関する文献を輪読しながら、高知県内で行われるフィールドワークの実施を具体的に指導する。この演習を通じて、過疎化・高齢化の進む地方の村落社会の実態を把握し、研究発表とディスカッションを行う。
地域環境経済論演習	環境問題や環境政策の理論的・実証的研究の基礎となる文献を講読する。また、実証研究の要となる計量経済分析は、基本的にコンピューターおよびそのアプリケーションを用いて行われるが、必要に応じそれを利用するための基礎的な知識・技能を実習を交えて行い、研究発表とディスカッションを行う。
社会福祉経済論演習	年金、医療、介護、児童・障害者福祉などの福祉諸政策やそれに関わる社会問題のうち、ゼミ生の関心に応じて研究対象を絞り、修士論文の準備を兼ねた報告および議論・指導を行う。その際、政策分析や研究史に関する理論的なアプローチと並行して、アンケートやヒアリングによる地域調査等も取り入れて実証的な裏付けを行い、研究発表とディスカッションを行う。
公益事業論演習	本演習では、電気産業と保健医療産業を中心として、公益事業の21世紀のあり方についていくつかの文献を通して議論をしてゆく。また、その際、一層の活発な議論を目指して電力産業と保健医療産業の現在の施設見学・調査をも合わせて行い、研究発表とディスカッションを行う。
日本経済構造分析論演習	日本経済構造の特徴および地域経済との関連について文献的研究を追求すると同時に、コンピュータを用いた日本経済構造の解析や産業連関表による地域経済構造の特性解明についても行い、研究発表とディスカッションを行う。
財政学演習	公共部門の管理手法や税財政制度、公益企業等に関する理論書を学習するとともに、自治体等のヒアリングを行い、実践面についての調査を行い、研究発表とディスカッションを行う。
労働経済論演習	雇用政策のあり方、および政策評価の方法に関する文献を輪読し、内容に関するディスカッションを行う。
地方財政論演習	地方財政論特論の内容をふまえつつ、経済社会の構造変化と分権改革のなかでの自治体財政問題について、地域経済、地域問題、地域政策との関わりを重視しながら分析するとともに、地方財政改革について考察する。特に高知県における自治体財政の分析と自治体財政政策のあり方を検討する。また、研究発表とディスカッションを行う。
都市政策論演習	日本、アジア、欧米における都市問題の実状と対策事例に対して、経済理論をベースにした分析を行う。また、現地調査を含めた綿密な研究活動を通じて、実証的な側面からも政策分析を行い、それらについての研究発表とディスカッションを実施する。

国際交流研究分野

分野講義科目および分野演習科目 (異文化交流論領域)

授業題目名	講義等の内容
文化・コミュニケーション論特論	異文化間の相互理解研究の基礎となる理論を紹介する。中心は言語学的相互行為理論で特に日常談話の研究である。データを定義し、調査・研究方法を紹介する。日独英の言語圏における事象を材料にして、文化の基盤である相互行為における自明性を解明する方途を示す。
異文化間コミュニケーション論特論	この授業では「文化」の概念を捉える方法を検討していく。文化と個人の行動との間の関係に気づくことから始め、文化的要因とコミュニケーションスタイルとの間の関係を明確にし、この関係が異文化間接触にどのような影響を及ぼすのか検討しながら、異文化間接触に関わる内容を言語カリキュラムに取り入れる方法を探究していく。(使用言語:英語)
日本語コミュニケーション論特論	日本語を母語とする人と、外国語とする人たちが互いにスムーズに意思疎通できるために必要な基礎知識(外国語)としての日本語、あるいはコミュニケーション・ツールとしての日本語能力育成および専門理論修得のための講義である。
日本語構造論特論	外国人が日本語を習得する際どのような問題がおこりやすいか、また外国人に日本語を教える際どのような点に注意すべきかなどを踏まえながら、これまでの日本語の文法研究を紹介し、その問題点について考える。
外国語習得論特論	外国語習得の基礎理論を国内外の実証研究の成果から再検討し、第二言語能力の本質や、その発達に影響を与える諸要因について論述する。具体的には、学習者言語の特徴や外国語習得に影響を与える外的、内的要因、母語の役割など、先行研究で蓄積されてきた成果を概観し、この分野を包括的に理解することを目指す。
対照言語論特論	日本語とフランス語はお互いに極端な異なる特性を示す。普遍的な意味がこのように全く違う形式を用いて表現される過程はきわめて興味深い。語彙、統語、意味、文体等の各部門ごとに厳密な言語学的手法を用い、どのような「方策」によって、それぞれの言語が表現、伝達という目標を達成しているのかを考究する。また系統的にはフランス語に近く、類型論的にはやや日本語に近いところもある英語との対照も行い、三言語の位置を明らかにする。
英文法論特論	「8品詞5文型」に代表される従来の「学校英文法」に対して、何か物足りなさを感じた事はなかっただろうか？本講義「英文法論特論」では、チョムスキーによって確立された生成文法的な視点からの英文法研究を目指し、主として統語論(syntax)を中心に言語の理論的考察を試みる。
英語音声学特論	言語学における音声学・音韻論の位置付けと理論的枠組みについて知る。音韻理論では生成音韻理論を中心に音韻構造について、音声学では調音音声学に始まり音響音声学に至る基礎理論を中心に学ぶ。
心理言語学特論	言語のコミュニケーションは、発話の生産とその理解から成り立っている。本講義では、その基礎研究にあたる認知レベルでの文の生産と理解の過程について扱う。第一言語のモデルのほか、2言語の相互作用についても触れる。
アメリカ言語文化論特論	アメリカにおける自然(環境)と人間との関わりを、文学ばかりでなく政治・経済・宗教・エコロジー・環境保護・環境倫理などの観点から、総合的に解明する。
イギリス言語文化論特論	イギリスの文化は様々な民族の影響を受けつつ、独特な変遷を経て現在に至っているが、その成立過程を解説することにより、イギリス社会の特殊性や日本文化との相違点を明らかにする。

ドイツ言語文化論特論	ドイツ語の変遷を歴史的に検証し、インド・ヨーロッパ語族内でのドイツ語の固有性と位置関係を考察する。ドイツ語の過去の足跡と現在の状況を解明しながら、ドイツ語に対する考え方をそれぞれの時代の言語理論を基礎として考察する。即ち、歴史・比較言語論のような通時の研究のみならず、構造言語学、生成文法理論のような共時の研究の成果を理解・把握する。
ドイツ文化論特論	大きく揺れ動いた近・現代ヨーロッパ。この特論では、その中でも特にドイツ語圏の文化・社会を歴史的な背景を含め、多岐にわたる文脈の中で見ていく。
中国言語文化論特論	中国の古典詩歌から反映されている中国文化の様相を考察し、詩を通じて、中国の古い文化への理解を深めよう。
中国近・現代文化論特論	20世紀前半の上海は、多くの人種が入り交じる国際都市として発展を遂げており、そのため独自の文化が花開く都市でもあった。文学や映画、漫画などさまざまな題材から、上海文化の特徴を検討し、現代社会におけるその可能性を探る。
東アジア言語文化論特論	中国の近世(宋代)は、それまでの時代に比較して、詩人とその作品数の飛躍的な増大という点のみならず、詩のありよう自体が大きく変化を遂げている。中世後半(唐代)の文学と比べることで、中国近世文学の特徴を考える。
東アジア古代歴史文化論特論	中国古代の社会と文化について、いかにしてモノが作られ、そして流通していったのか、という「生産と流通」、および地域間の差異と相互関係に注目する「地域性」、の二つの観点から異文化の背景を理解する。
東アジア近世歴史文化論特論	中国の16, 17世紀の明末清初期には、王朝交替下の地域社会の緊迫した動静をリアルタイムに記した史料が際立って出現する。これらの多くを手がけた郷紳・士大夫層の問題意識に即して中国の地域社会の歴史的文化的特質について考察する。
文化・コミュニケーション論演習	特論を深化させ、ここに文献・資料を検証して、比較的若い分野である相互行為理論の社会言語学の成立過程、背景、中心事例を確認する。この領域が文化とコミュニケーションの研究にどのような意義を有するか考察する。演習参加者が集めた個別事例を深く分析し、研究発表とディスカッションを行う。
異文化間コミュニケーション論演習	「異文化間コミュニケーション論特論」において習得した方法論をオリジナルな研究へと発展させていく方法を探究する。各院生は関心のある特定の領域における先行研究を批判的に検討することから始め、研究発表と討論を行っていきながら、独自の研究を立案し実行することになる。(使用言語: 英語)
日本語コミュニケーション論演習	コミュニケーション・ツールとしての日本語を、より効果的にあるいはよりスムーズに行うための研究発表とディスカッションを行う。個人差、単語選択、表現能力、文化的バックグラウンド、国籍、年齢、意志、ジェンダー等がキーワードとなる。
日本語構造論演習	用例収集の方法、内省判断による分析の方法、調査の仕方、文献の批判的な読み方などを学び、研究発表を重ねながら日本語文法の分析方法を身につける。
外国語習得論演習	外国語習得と教授に関する研究動向を把握し、この分野の先端的研究を理解するため、広範な研究論文を講読し、研究発表とディスカッションを行う。具体的には、国内外の最新の研究誌に掲載されている学術論文を講読する。同時に、実験研究や事例研究、文献研究、調査研究、開発研究など主なりサーチ手法についての理解も深める。
対照言語論演習	対照言語学的手法を用いて、実際にコーパスの収集、分析を行い、一定の結論が出るまで指導する。「対照言語論特論」の理論を基礎とし、取り扱う言語は日、仏、英を中心とする。コーパスは新聞、雑誌、小説、談話等ありとあらゆるものが対象となる。



英文法論演習	<p>チョムスキーが、いわゆる「生成文法」(Generative Grammar)の礎を作ってから、既に40年を闊した。この間に幾多の理論的変遷を経てきたものの、これほど強力で広範囲な影響力を持つ言語理論は歴史上どこにも存在しなかったと言える。本演習「英文法論演習」では、原則として、このチョムスキー的統語論(Chomskyan Syntax)の理論や原理に基づきながら英文法を考えて行く事とする。</p>
英語音声学演習	<p>音響音声学におけるコンピュータ分析手法を学び、音声現象の音響的分析で音声変理論の裏づけのための検証方法を知る。特に母語及び外国語としての英語に見られる音声変化現象を取り上げ、言語音声の普遍性を探る。</p>
心理言語学演習	<p>言語のコミュニケーションは、発話の生産とその理解から成り立っている。本演習では、その基礎演習にあたる認知レベルでの文の生産と理解の過程を第一言語としての英語と日本語を扱った文献を中心に検討する。その上で2言語の相互作用という視点から、第二言語における理解や発話生産の過程における文処理の方略の研究を扱う。授業は研究発表とディスカッションを中心に進める。</p>
アメリカ言語文化論演習	<p>アメリカにおける自然(環境)と人間との関わりを扱った作品を取り上げ、緻密な作品分析を通してその歴史的、文化的、環境的意義を解明し、全体像をうきぼりにすることを狙いとし、研究発表とディスカッションを行う。</p>
イギリス言語文化論演習	<p>イギリス文化を深く理解する上で欠かすことのできない言語作品を政治、宗教、思想、文学など広い分野にわたり読解することを通して、イギリス社会の諸問題を考察し、研究発表とディスカッションを行う。</p>
ドイツ言語文化論演習	<p>ドイツの言語史、言語理論に関する原典・文献を原語によって講読する。今世紀に著しい展開をみせた言語理論を検証することによって、ドイツ語の全体像を考察する。また、研究発表とディスカッションを行う。</p>
ドイツ文化論演習	<p>「ドイツ文化論特論」の内容を踏まえ、ドイツ語圏の文化と社会に関係する問題について考える。また、研究発表とディスカッションを行う。</p>
中国言語文化論演習	<p>いろいろな詩人の作品をテキストとして、中国の古典詩歌から反映されている中国文化の様相を考察し、中国の古い文化への理解を深め、研究発表とディスカッションを行う。</p>
中国近・現代文化論演習	<p>特論の内容を踏まえ、文学や映画、漫画などさまざまな題材から、上海文化の特徴を検討し、現代社会におけるその可能性を探り、研究発表とディスカッションを行う。</p>
東アジア言語文化論演習	<p>中国の中世後半と近世を対象として、その詩と詩論について考える。具体的には、代表的な詩人の作品を精密に読み解くことと、当時の文学論 - 詩格・詩話類 - にどのような論議がいかになされ、どう連携しているかを考察し、研究発表とディスカッションを行う。</p>
東アジア古代歴史文化論演習	<p>近年続々と発掘、発表される考古遺物や出土文字資料を、『史記』や『漢書』をはじめとする文献資料と比較・対照しながら、中国古代社会における生活の具体相を復元し、歴史研究法を修得、異文化理解を深める。また、研究発表とディスカッションを行う。</p>
東アジア近世歴史文化論演習	<p>中国の明清時代には、地域社会の公的課題(賦役徴収・土地所有・水利等々)を自ら解決しようとした士大夫の手になる地方的文書が数多く刊行される。内外の先学の研究成果を確認しながら代表的史料の精読を試み、それを通して中国近世社会の歴史的特質に迫る。また、研究発表とディスカッションを行う。</p>

分野講義科目および分野演習科目（社会経済交流論領域）

授業題目名	講義等の内容
国際経済論特論	<p>対外直接投資・海外生産に関する理論と実態に関する検討を行う。なぜ・どのようにして企業の海外活動が展開されるのか、そしてそのような企業活動が本国経済・投資受入国経済にいかなる効果を与えるかについて考察する。</p>
国際金融論特論	<p>国民金融システムの複合体として発生・発展・運動する国際金融システムの法則について理論的・歴史的・現代的に解明し、そのシステムが金融公益(国際公益)を高める方向に向かうか否かを検証し、金融公益を高めるための制御方法について講義する。</p>
移行経済論特論	<p>ロシア・東欧諸国の市場経済への移行過程を、レントシーキングというキーワードからロシアの金融産業グループの実態を詳細に分析することで解明する。また、他の東欧諸国とロシアとの比較研究を行い、それらの特徴を検出することによって、旧来の移行経済諸理論の批判と新しい理論構築のための問題を解明する。</p>
国際政治史特論	<p>アメリカ合衆国の対外政策の展開を中心におきながら、戦間期から第二次大戦後の国際政治の歴史について究明する。特に、冷戦の始まりからその終結までの時期に重点をおく。</p>
西洋社会経済史特論	<p>近代西洋の歴史的展開過程を概観するとともに、とくにアメリカ経済社会発展の歴史的性質について、土地問題(アメリカにあっては公有地問題)およびその問題の鉄道建設との関わりに焦点を当てて考察する。</p>
西洋社会経済思想史特論	<p>近代社会の成立とその思想。20世紀末の社会主義諸国の崩壊以来、マルクス主義にかわって近代社会思想が再評価されるようになってきた。この特論ではホッブス、ロック、スミスを中心に現代でも通用する市民社会を生み出してきた、また、その支柱となっている近代社会思想について検討する。</p>
比較企業経営論特論	<p>過去500年に及ぶ企業形態の歴史を踏まえて、その現代的展開の代表者たる株式会社の経営理念、経営の指導原理、経営戦略、組織形態、企業間関係等の理論的前提に関わるこれまでの内外の研究成果を講義するとともに、企業の社会的責任、経営者の類型化、所有と経営の分離、コーポレート・ガバナンス等の現代的問題について、システムの絶え間ない動揺に直面する日本の企業経営、市場経済への移行期にあるロシア企業を具体的に比較検討することを通じて、企業経営論についての理解を深める。</p>
経営管理論特論	<p>経営管理論を科学的管理法からフォードシステム論、経営管理過程論、人間関係論、現代管理諸論までの展開のなかで総合的に講義し、あわせて具体的課題として、人間と技術、職務との関係の最適化をはかり、組織と人間の能力を有効活用する管理のあり方を理論的に整理しながら究明する。</p>
比較会計制度論特論	<p>日本とアメリカを中心とする会計制度の構造的特徴を明らかにし、経済のグローバル化のなかで国際的な会計尺度の調和化の傾向について究明する。</p>
財務会計論特論	<p>アメリカの現代会計理論の理論構造と現代の会計実務の特徴を明らかにし、理論と実務の関連性という視点に立って、実務に対する理論の役割と実務がもたらす効果を究明する。</p>
企業法特論	<p>企業経営をめぐる様々な問題点のうち、特に企業内での意思決定および権限・責任の分配の問題を中心に、現行商法の法制度と、現在審議中の新会社法とを比較しつつ検討する。</p>
経済法特論	<p>わが国の経済法制の実証的・比較法的検証を行う。検討の中心となるのは、独占禁止法及びその関連法制(景法的・下請法等)であるわが国企業の国際化を踏まえて各種企業法制とりわけ中小企業法制の検討も行う。</p>

比較経済システム論特論	比較経済システム論の方法論、計画経済システム論と市場経済システムの対比、市場経済システムへの移行過程にある新生ロシアと中国との比較を行っていく。
中国経済発展論特論	中国経済を財政・金融政策の観点から検討し、インフレとデフレが中国の経済発展に及ぼした影響について考察する。1935年の幣制改革から1949年までの時期と1978年以降「改革・開放」期の金融システムを中心に究明する。
企業情報システム論特論	企業の経営において重要な経営資源(ヒト、モノ、カネ、情報)を効果的に利用したシステムの構築についての種々の側面を概観する。「情報化社会」と呼ばれる社会の中での企業経営における情報資源の役割を考察し、膨大なデータを加工・処理し、意思決定や評価に必要な情報を抽出する手法について理解を深める。
アジア経済社会論特論	日本を含むアジアの資本主義的発展とそれに伴う社会経済構造の変化について、アグリ・フードセクターを中心に国際比較を踏まえながら検討する。また、アグリビジネス論を軸としながら、商品・資本労働力の国際化の現状についても、考察を深める。
アメリカ経済論特論	現代アメリカ経済の債務国への転落とそれともなうアメリカの対外政策の変化を追い、日米経済摩擦の激化にみられる国際経済システムの変貌について検討を深め、望ましい国際経済システムのあり方について考える。
アジア政治経済論特論	アジア地域の社会・経済の発展とその歴史を、国際的な資金・企業ネットワークの発展という角度から考察し、アジア特有の経済発展の現状と問題そして今後の課題について検討する。
開発援助論特論	発展途上国への開発援助の系譜を先進諸国の経験と比較検討し、最近の国際情勢を背景に途上諸国の自立を促す支援のあり方を、援助する側・される側双方の視点に立ち考察する。
国際経済論演習	直接投資、合併買収、戦略的提携などを通じて展開されている企業のグローバル化に関する理論的検討を行い、そして日本企業とくに四国地域の企業の実態に関する研究報告とディスカッションを行う。
国際金融論演習	国民金融システムの複合体として発生・発展・運動する国際金融システムの法則について理論的・歴史的・現代的に解明し、そのシステムが金融公益(国際公益)を高める方向に向かうか否かを検証し、金融公益を高めるための制御方法について、ディスカッションすることによって、さらに理解と考察を深める。
移行経済論演習	レントシーキングというキーワードからロシアの金融産業グループの実態および東欧諸国の国家・金融・産業企業の分離・融合過程を詳細に分析することで移行経済諸国の比較研究を行う。そのなかで、関連資料・文献の収集・検討・分析の方法を養うと同時に、研究報告とディスカッションを行う。
国際政治史演習	戦間期以降のアメリカ合衆国の対外政策及び冷戦史に関する欧米の国際政治史学界・外交史学界の研究文献を読み、研究発表とディスカッションを行う。
西洋社会経済史演習	アメリカ経済社会発展の歴史的特質について、とくに19世紀後半期における公有地問題、鉄道史、金融資本形成史に関わる文献、資料を講読し、研究発表とディスカッションを行う。
西洋社会経済思想史演習	ヒューム、スミス、ファーガソンを中心とするスコットランド啓蒙思想家達の著作を検討する。さらに、彼らの背景となる18世紀スコットランドの社会状況およびヨーロッパ社会状況、思想状況についても検討し、研究発表とディスカッションを行う。
比較企業経営論演習	企業の経営理念、経営の指導原理、経営戦略、経営組織形態、所有と経営の分離、企業間関係等に関する最新の企業経営論のテキストを講読するとともに、特に経営者類型とその生成、コーポレート・ガバナンス、企業の社会的責任等の現代的問題を中心に、世界的戦略を強力に展開するアメリカ企業、停滞する日本企業及び体制転換途上のロシア企業の現状と問題点を院生が実証的に追究し、その研究成果の発表と討論を通じて企業経営の比較検討を行う。

経営管理論演習	経営管理論の最新のテキストと理論的研究成果を踏まえながら、ケース・スタディの手法で2企業以上の比較実態調査を行う。調査は情報化の展開が企業管理、とりわけ人事・労務管理にいかなる変化をもたらすかに集中し、その成果について研究発表とディスカッションを行う。そのことにより、組織と人間の能力を有効活用する管理論の理論的發展を追求する。
比較会計制度論演習	アメリカ合衆国の会計制度の構造を日本の会計制度と比較検討することを通じて、会計制度の社会的役割を究明し、研究発表とディスカッションを行う。
財務会計論演習	アメリカの金融商品会計の特徴と現代会計理論の概念構造を明らかにし、会計における理論と実務の相互関連ならびに役割を究明し、研究発表とディスカッションを行う。
企業法演習	企業経営をめぐる判例・事例を題材として、それを司る法制度の理念・問題点・解決のあり方について検討し、研究発表とディスカッションを行う。
経済法演習	経済法学関係の原資料を検討する。とりわけ独占禁止関連の判例・審決および景品表示法関連の審決・排除命令等詳細に吟味し、併せて諸外国の法運用との比較法学的究明も行い、研究発表とディスカッションを行う。
比較経済システム論演習	G. スチュアートの比較経済システム論を参考に、比較経済システムの方法論、計画経済システムの限界と問題点、新生ロシアと中国の市場経済移行問題を検討し、研究発表とディスカッションを行う。
中国経済発展論演習	中国の通貨制度に関する著書、原書、原著論文を講読し、中国の金融システムの特徴について検討し、研究発表とディスカッションを行う。対象とする時期は、中華民国期以降(1941年以降)とする。
企業情報システム論演習	企業情報システム論演習データ収集技術の進歩に伴いさまざまな目的に膨大なデータが利用可能となっている現状を踏まえて、データや数理的モデル分析に基づいた企業意思決定に関する文献を購読し、研究発表とディスカッションを行う。
アジア経済社会論演習	日本を含むアジアの社会経済発展に関する各種文献(日本語・外国語双方を含む)を輪読し、アジアの経済社会の現状に対する理解を深めるとともに、実態把握にまつわる方法論について、参加者の研究発表とディスカッションを行う。

## 人間学研究分野

### 分野講義科目および分野演習科目（思想行動論領域）

授業題目名	講義等の内容
西洋思想起源論特論	西洋古代にあっては、学問の様々な分野は相互に緊密な有機的関連をもっていた。今日また、人間の多様な精神的営みが有機的総合的に機能することが要請されている。今日的な要請の観点から、西洋古代思想のもつ意味を改めて考察する。
西洋近代思想論特論	西洋において人間、世界(自然、社会、歴史)、神の三者がどのように見られているかを考察し、「近代」思想の成り立つ哲学的基礎を究明する。
環境・生命倫理論特論	現代の生命倫理および環境倫理のバックボーンとなっている代表的な倫理的アプローチ、(1)目的論的、(2)応用倫理的、(3)法倫理的、(4)政治哲学的アプローチを比較検討し、それぞれの問題点を明らかにすることによって、生命倫理および環境倫理への新たなアプローチを模索してみたい。
人間存在論特論	「人間存在」の実相に迫るために、内外の定評ある古典に知恵を仰ぎながら、現代の実際的問題(環境、生命など)を、多角的に検討したい。
宗教思想特論	宗教思想の諸展開をとりあげて、それらの提示する世界観と超越の在り方という問題を論じる。
産業心理学特論	現代日本の産業労働者をとりまく様々な課題を社会心理学的に分析する。過労死やコンピュータ化に伴うストレスの問題、中高年労働者の労働負担や能力開発の問題等について究明する。
知覚心理学特論	我々は人間関係を簡潔化して家族とか友達とかまとめて捉える。もっと簡単な心の働きである環境知覚も同様である。いろいろな知覚現象を通覧して心の働きの法則化をゲシュタルト理論や認知理論と関連させて考察する。
認知心理学特論	人間の認知過程に関する主要な理論を概観する。特に、認知心理学の方法論、視覚的認知過程、聴覚的認知過程、記憶や注意の機構について論考する。さらに、家族構造の認知にみられる多様性についても考察する。
発達心理学特論	言語発達、空間認知、記憶の発達等、認知発達の基本的な問題を取り上げ、どのようにして認識が獲得されていくか、その特徴はどのようなものかを考察する。
社会心理学特論	対人関係の社会心理学を総合的に概観し、対人相互作用対人認知を分析するための重要な理論とその応用を論じる。並びに社会構築主義に基づく日常知の理解についても学ぶ。
感情心理学特論	感情の喚起やその後に生起する行動について概観する。特定の感情に注目し、その社会事象との関連も含めて論じる。また、研究手法や分析手法についても考察する。
臨床心理学特論	臨床心理学および精神病理学を概観し、正常と異常の心理を解説することにより、人間に対する理解の仕方や援助の方法について論考する。
言語意味論特論	言語における意味の問題を、英語を中心に扱う。語彙的な意味論から、文の意味論へと話を進め、言語と指示物の関係、文のレベルの意味の決定の方法、文の意味の定式化の問題、文と文との意味的關係等を論ずる。
言語文法論特論	言語の普遍的な特性と個別言語(英語、日本語など)に固有の特性について形態論と統語論の観点から考察する。
西洋近代思想論演習	西洋近代哲学の基本的テキストを読みながら「近代」の意味について再検討し、研究発表とディスカッションを行う。

環境・生命倫理論演習	生命倫理および環境倫理に係わる基本文献を読み、議論することによって特論のアプローチをさらに具体的かつ詳細に検討し、研究発表を行う。
人間存在論演習	内外の古典的テキストを精読しながら、そこで問題になっている事柄を徹底的に議論することを目標にしたい。研究発表も行う。テキストは「人間性」を主題としているものを選ぶ予定。
宗教思想演習	宗教思想の古典的テキストを講読し、宗教思想の諸問題をめぐって、研究発表とディスカッションを行う。
産業心理学演習	産業社会心理学、特に産業疲労やストレスに関する外国雑誌の論文等を講読し、研究発表とディスカッションを行う。
知覚心理学演習	錯視現象を中心に、多くの知覚現象をいろいろな知覚理論によって記述説明することを試みるとともに、知覚を情報処理過程として捕らえた場合のゲシュタルト理論と認知理論との関連を検討し、研究発表とディスカッションを行う。
認知心理学演習	認知心理学に関する最新の研究成果を検討する。これを通じて、人間の認知様式の特徴やそれに影響を及ぼす諸要因について考察し、研究発表とディスカッションを行う。
発達心理学演習	認知発達に関する最新の研究成果を検討しながら、研究の動向を知るとともに今後の研究を展望することによってえた成果の研究発表とディスカッションを行う。
社会心理学演習	においては対人関係のダークサイド研究を軸に対人コミュニケーションや社会的ネットワーク及び社会意識を研究するための理論を存在論・認識論・方法論の3つの側面から論考する。においては、対人関係の社会的結合体の内部のダイナミクスとそれを包含する社会的文脈との相互作用及び意味生成過程をデータに基づいて分析する。とともに研究発表とディスカッションで進める。
感情心理学演習	感情経験に関する研究的知見を検討する。影響要因やその機序を議論・考察するために研究発表とディスカッションを行う。
臨床心理学演習	臨床心理学および精神病理学に関する文献を講読し、研究発表とディスカッションを行う。
言語意味論演習	言葉における意味の問題を扱った基本的な文献を読み、意味の問題に対する考え方を整理するとともに、日常生活の中で言語的意味が関係する出来事を考察し、研究発表とディスカッションを行う。
言語文法論演習	形態論と統語論に関する基本的文献、あるいは最新の研究論文を講読し、研究発表とディスカッションを行う。

分野講義科目および分野演習科目(文化表象論領域)

授業題目名	講義等の内容
アメリカ文学論特論	宗教・政治・ジェンダー・人種などの視点から、アメリカン・ルネッサンス期の文学作品群に考察を加えていく。その過程でフーコーの理論を取り入れつつ、自己形成の在り方を検証する。
アメリカ文芸論特論	19, 20世紀のアメリカの代表的な小説を取り上げて、作品の中の表現面の特徴に注意しながら、また、研究論文などを参考にしながら、小説の読み方を考察する。
イギリス文学論特論	19世紀半ばからモダニズムの時期にかけてのイギリス文学・文化の理解に必要な知識を講義する。受講生は指定された文献をあらかじめ読んで授業に望むことが求められる。
イギリス近代演劇論特論	本講義では、シェイクスピアを中心とするイギリス・ルネッサンスの文学作品を、歴史的資料や研究論文を参考にしながら論じることで、その文化像の特徴や特殊性、また翻って普遍性を浮き彫りにする。
ドイツ文学論特論	主として近代から現代に至るドイツ文学の代表的な作品を具体的に分析、検討することによって西洋文化の特質を理解するとともに、それらに通底する普遍性を把握して、人間文化の在り方を考察する。
西洋思想文化論特論	古典ギリシア受容史上ドイツ文化の果たした格別な役割につき、啓蒙期から天才時代に至る成果を中心に考察する。殊にフランス古典主義のギリシア観を批判しつつ継承発展させ、この内容を更に進化させた過程を究明する。
フランス言語記号論特論	フランス文学を対象とし、テキスト、特に文学テキストの成立に記号としての言葉がどのように関与するかについて考える。それはまた人間にとっての言語活動一般について具体的に考えることでもある。
現代大衆文化論特論	映画、演劇、音楽、コミックス等に代表される大衆文化を、アメリカを中心としつつ、できるだけ幅広く概観し、その特徴を明らかにする。同時に、その体系化を図り、そこから現代という時代の特徴を浮き彫りにしていく。
フランス文芸思潮論特論	国際化が急速に進行する現代世界において、フランスとは何かと言う問題を考えていくひとつの契機として、フランスの文学をはじめ、フランス現代思想なども含むフランス文化について学ぶ。
アメリカ文学論演習	アメリカ文学を代表する作品(ホーソン、メルヴィル、フォークナー、モリソン、マラマッドなど)を題材にアメリカ文学・文化の特質を検証する。授業では研究発表とディスカッションを行う。
アメリカ文芸論演習	アメリカ文芸論特論の趣旨を深めるために、19, 20世紀の主要な小説を取り上げて、作品の表現面の特徴に注意しながら精読し、学生は、小説の読み方を研究し発表する。
イギリス文学論演習	19世紀後半から現代までの短編小説数編を精読し、議論していく。討論および研究発表を重ね、受講生が英文学の研究方法を身につけていくことを目標とする。
イギリス近代演劇論演習	本演習では、イギリス文化の神髄とも言えるシェイクスピアを中心とする文学作品及び周辺の歴史的資料、研究論文等を精密に読みながら、学生の資料分析能力を養い、調査・研究を通して、その文化の内容と形式の特質を検討し、研究発表とディスカッションを行う。

ドイツ文学論演習	<p>ゲーテ、シラーの古典主義からロマン主義、そしてカフカ、エンデに至るドイツ文学の代表的作家の作品を原典テキストで精読して、作家及び作品の特色を探るとともに、風土、歴史、時代等が作家、作品に及ぼした影響についても検討し、研究発表とディスカッションを行う。</p>
西洋思想文化論演習	<p>聖書や西洋古典の造詣なしには十分理解できない18世紀ドイツ文学を読み、欧米の伝統ある教養に触れる。また、研究発表とディスカッションを行う。この際ギリシアを18世紀以降ドイツが他国に増して熱心に学び、ここから後に範となる学術を築いた点を重視する。</p>
フランス言語記号論演習	<p>記号としての言葉の機能に特に敏感になった現代フランス文学のテキストを解析検討することにより、言葉を通じて人間の思考力、想像力がどのように展開するかについて実際に即して検証し、研究発表とディスカッションを行う。</p>
現代大衆文化論演習	<p>映画、演劇等に代表される現代大衆文化の具体的事例に関する学生の調査報告、研究発表に基づき、討論を行う。それにより、現代大衆文化の特質を考察していくと同時に、身近な事例から時代の特質について考える姿勢を養う。</p>
フランス文芸思潮論演習	<p>フランス文化を代表するさまざまな作家や思想家の多様な文章をテキストにして、フランス語を読解する能力を向上させるとともに、フランス文化全体に対する理解力を養うことを目指したい。研究発表とディスカッションを中心に行う。</p>